

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171100488		
法人名	グループホームやすらぎ有限会社		
事業所名	グループホームやすらぎ		
所在地	埼玉県北葛飾郡杉戸町地6-2-7		
自己評価作成日	平成23年4月30日	評価結果市町村受理日	平成23年6月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1171100488&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市宮前町2-241		
訪問調査日	平成23年5月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中、楽しく生活しております、利用者は仲良く、おしゃべりしたり、お天気のいい日は皆で散歩へ行ったり、開放的で伸び伸びと安心して生活できるように援助しています。下肢筋力が弱って車椅子や、歩行器が必要だった人も、当グループホームで毎日生活する事によって、だんだん状態が良くなり、杖歩行、つかまり歩行ができるようになった利用者様もいます。認知の周辺症状も改善している利用者様も多いと思います。散歩に行った際、きれいな花に感動したり、感情豊かな利用者様が多いので、介護していても癒されます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

東武動物公園駅から車で10分程の所にある当グループホームは、閑静な住宅地の一角にあり、一般住宅を改装した1ユニット(9人)で、入居者は家庭的な雰囲気の中、職員からの援助を受けながら、和気あいあいと日常生活を送っている。車椅子で入居した人も今では自力歩行で散歩に出掛けられるようになったり、オムツ使用の人がトイレ使用に改善されたりと、日頃の関わりの中から生活リハビリを重視したケアに取り組んでいる。天気の良い日には午前・午後と近くの公園まで散歩に出掛け、隣近所の方とは顔見知りになり挨拶をしたり、日頃の様子を話す等の会話を楽しんでいる。食後には少しの時間であるが入居者が横になり休むことが習慣化している。日光浴や外気浴をする為、風邪をひく事もなく元気に過ごし、居間からはいつも笑い声が聞こえている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
					実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	居間の壁面に理念が掲示してあり、職員が理念について把握するようにしている。	ホーム独自の理念を入居者や職員が一番長く時間を過ごす居間に掲示してあるが、文章が長く、言葉の理解が難しい。職員には朝のカンファレンス時に「家庭的な雰囲気を出すように」と指導し、時には唱和している。	職員は言葉の内容を理解し、実践しているが、入居者や家族にも分かりやすい言葉の表現を工夫する等、理解しやすい理念への取組みが期待される。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	共有場所の草取りや掃除を職員が利用者と一緒にしているほか、自治会にも加入してゴミ当番も担っている。散歩時、近所の人に合った場合挨拶をしたり、お話ししたりして交流するようにしている。	自治会に加入し、入居者と職員が公共場所の草取りや清掃に参加している。最近自治会の活動がなく、近所付き合いが疎遠になっているが、散歩時には挨拶や世間話をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、実践してはおりませんが、これから専門の研修を受け、地域貢献したいと考えています			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は定期的開催され、利用者の近況、活動報告をし、感染症、認知症、他について話し合っている。	運営推進会議は、地域包括支援センター職員、家族代表、役場担当者、民生委員、相談員、職員等が参加し、状況報告、認知症理解や感染症予防についての意見交換等を内容に、年6回定期的開催している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場主催の会議には、必ず参加している他、情報提供、相談などしばしば連絡を取り合い連携を図っている。	3ヶ月に1回、介護保険関係の事業所が集まり開催している相談員連絡会議に参加している。役場主催の研修会にも参加し、情報提供や指導等も得ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束の具体的な行為を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	夜間以外は門や玄関を施錠していない為、入居者は自由に出入りしている。入居者個々に可能な範囲で外に出て、道端に咲いている花を摘んで帰り、テーブルに飾ったりしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、高齢者虐待防止対応研修会などに出席して虐待防止法なども学んでいる、当ホームでは、虐待は行われていない。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について一様学んではいるが、活用できるような事例がない、そういう機会がありましたら活用したいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族等の不安や疑問点を、十分な説明を行い、理解、納得してもらうようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などを利用して家族の話をよく聞くように努力している。今のところ苦情はない。	面会時に家族から聞くように努めているが、なかなか意見等は出てこない。又、面会に来る家族も少なくなっている。日用品を持参してもらったり、ホームの行事に合わせて家族の交流の場を作ったりと工夫をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなどを行い職員の意見や提案を聞くようにしている。	不定期ではあるが、全体会議の中で電話対応や倫理関係について話合っている。職員から季節により入浴回数増の提案があり、実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、働きやすく、やりがいのあつる職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員間で自主研修を行っている。研修に参加した職員は、習得したものを他の職員に伝えるようにしている。共通したケアができるよう、カンファレンスをまめに行い利用者様へのよりよいケアに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	役場主催の交流会は参加している。一部の事業所との交流もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族だけでなく本人にも来てもらい、部屋やホーム内を案内して他の利用者と一緒に過ごし、納得してから入居してもらっている。また入居後なれるまでは、夜間の見守りを頻繁に行い、レクリエーションには無理強せず自然に参加できるように配慮している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事、不安な事、要望等、傾聴しケアプランを製作し、不安が取り除けるようケアしている、何かあれば連絡し家族との信頼関係が築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と、家族が必要としている、サービスができるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生経験豊富な利用者の方々に教えを請う事が多く、料理の仕方、工夫の仕方、昔から伝えられている事、なるほどと、感心させられる事が多い、職員も、利用者も一緒に楽しみながら、毎日を過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	密に連絡取り合いながら共に本人を支えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の家や親戚、友達など関係が途切れないよう、家族と協力し合って支援したいと思っている。	入居前からの友人の手紙や電話を取り次いだり、友人が来所したりしている。近所の美容院の方が送り迎えで理美容の支援をしている。花見や気候の良い時はドライブに出掛け、ほぼ毎日午前・午後散歩に出ている。墓参りは家族対応で支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人が孤立することなく利用者同士がうまく関わり合えるよう、職員が、配慮もしているが、自然に利用者同士でお話している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要に応じて、相談や支援に努めるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりが言いたいことが言えるような雰囲気作りを努め本人の希望は、できるだけ実現できるようにしている。	日常の会話や表情、動作の中から察知し支援、対応をしている。トラブルになりそうな時は、職員がそれとなく対応し、円満に収まるよう支援している。プライドの高い入居者には全職員が気遣いをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人とアセスメントを十分に行い、一人ひとりの生活歴、生活環境、これまでの暮らしの把握をするようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の変化の状況など把握し、介護に活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の状態、生活歴、本人の希望、家族の意向を考慮して、家族、本人、職員とカンファレンスを行い、介護計画を作成している。	毎日朝のミーティング時に細かい変化等を引き継ぎ、計画作成担当者に伝えている。プラン変更時には職員から色々な意見を出してもらい、介護計画を立て、家族に伝え、了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録、を毎日行い職員は、目を通すようにし、随時カンファレンスを行い情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	カンファレンスを随時行い一人ひとりに柔軟な対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中に溶け込み、散歩時の挨拶を交わしたりお話ししたり、買い物に行、った時など、一人ひとりに対応してくれたりと揚力的である。		
30	(11)	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に往診して頂いている利用者もいまいが受診は、本人、及び家族等の希望を大切に、適切な医療を受けられるように支援している。	月1回協力病院の往診がある。入居前からのかかりつけ医や専門科への受診は、家族に協力してもらっている。結果については互いに共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、日常の変化や、情報、気付きを、職場内の看護職に伝え、相談し適切な、受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して入院できるよう入院の際は、利用者の状況など報告し、退院の際は、看護サマリーなどの情報を頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は、対象者いないが、今後医療と連携しながら、ターミナルケアを行っていきたいと思う。	入居時にターミナルケアの同意書を交わしている。その段階が来た場合、家族、ホーム、主治医で話合う仕組みがある。これまでに該当者はいない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救命救急研修に参加し、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	散歩などで全委員、外に出る習慣をつけているので、全職員誘導することはできる。避難訓練は、年2回おこなっているが、火事など起きた時、冷静に避難させる事が出来るか解らない。	年2回消防署立会いの下で訓練を実施している。内1回は夜間を想定し、入居者には各部屋で寝てもらい、消防署へ連絡し、避難出口や時間を確認している。特に初期消火に力を入れている。隣近所に協力をお願いしているが、協力者は少ない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	管理者は、言葉遣いなどの職員教育の徹底に努め、不用意な言動がないよう尊厳をまもっている。	職員は全員言葉遣いに気を使い、プライドを損ねない言葉掛けに取り組んでいる。職員が不用意な言動をしないよう段取りをつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が、自分が言いたい事を言える雰囲気作りに努め、自分で決められるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何でも話し合える雰囲気作りに努め個人のペースを大切に、和やかに過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	爪切りや、口腔ケア、入浴、着脱等身だしなみやおしゃれができるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の簡単な手伝い、配膳など利用者が楽しみながら一緒にやっている。	朝・夕食には業者から食材が届けられ、担当者とお手伝い頂ける入居者とで調理している。昼食はホーム側でメニューを考え、作っている。時々外食やお茶飲みに出掛ける事もある。	食事は入居者にとって楽しみの一つである。食べたい物や行事食、手作りおやつを一緒に作ったり、買物にも出掛けられるよう配慮する事が期待される。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った、栄養バランス、食べる量、水分量が取れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	今のところ全委員食欲あります。ただ、透析患者の利用者には、透析食を援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排せつパターンを把握し、その人に合った支援をしている。	昼間は全員トイレ利用をしているが、夜間のみリハビリパンツや尿とりパットを利用している。しぐさで察知してそれとなく声掛けし、支援している。夜中にトイレを利用する入居者もいる。	
44		便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養を考えたの食事に気をつけ水分補給できるように援助している。体操、散歩等行い、できるだけ体を動かしてもらうようにしているので、便秘予防にも役立っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の都合により日中入浴する事が多い。	季節に応じて回数増や時間帯を決めている。拒否する入居者には時間を空けて、再度さり気なく声掛けしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今のところ騒ぐ人もおらず静かに気持ちよさそうに安心して眠れている、今の状態が続けられるよう支援したいと思っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が薬の目的や副作用、用法、用量を理解しており、医師との連携を取り、職員全体で把握し服薬援助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、お茶の用意、洗濯物たたみ、縫い物等の利用者の得意なことや好きな事を楽しみながら自然に行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日は、散歩に出かけ、たまに外食、買い物、美容院へ出かけている、また。家族とも自由に出かけられるよう支援している。	散歩のコースが決まり、午前・午後と出掛ける事が日課となっている。いも掘りには近所の方が協力してくれて、車で一緒に出掛けている。又、家族が迎えに来て出掛ける事もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人は、持っていないが、買い物に行く時は、こちらでお金を渡している、他、家族と一緒に外出した際、買い物したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人、家族により、電話、手紙のやり取りを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を改修して設立したので、家庭的な雰囲気を感じられる。季節を感じるものを飾るなど、居心地の良い空間づくりの工夫をしている。	定期的に掲示物を変えたり、テーブルの配置を変えている。季節の花を飾り、話題にして会話がはずんでいる。テレビを見る時には各自の椅子に腰掛け、会話をしながら楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者がリビングに集まり、和やかに過ごしている。また一人になれる時間も、設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の思い出の物もあり、持ち物の整理がしやすいよう工夫、配慮されている。	入居者希望の寝具類が用意され、季節に必要な洋服が持ち込まれ、整理整頓し、使いやすく工夫している。仏壇や椅子を持ち込んだり、大きな椅子に着せ替え人形が飾ったり、植木鉢を置いたりしている入居者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なるべくできる範囲で自分で安全に行動できるように、環境を整えている。		